

千葉菌類談話会通信

Chiba Mycological Club Bulletin

	ページ
目次：きのこ古譚 (二)	2
きのこなんじゃらほい	3
図書紹介シリーズ (一)	4
行事案内 (談話会)	5
講座案内 (博物館)	6
これからの運営について	7
事務局から	7
キノコクロスワード	8



July 1992 No. 3

きのご古譚 (二)

根田 仁

ブクリョウ (茯苓) の話

ブクリョウは、サルノコシカケ科の木材腐朽菌で、マツの根を分解して生きている。松林を掘り返すと、地中に菌核と呼ばれるブクリョウの菌糸の塊が見つかることがある。外観は、ちょっと堅めの芋のようで、休眠器官とも栄養貯蔵器官だとも言われるが、実際はその両方の働きがあるのではないかと思われる。面白いのはブクリョウの子実体が滅多に見つからないことである。実験室内で子実体を発生させた報告はあるが、自然状態での報告は寡聞にして私は知らない。では一体どうして子孫を増やせるのか、非常に疑問。

昔の人も地中にできるブクリョウ (の菌核) を不思議に思ったようで、「松脂が地中に入って千年たつと茯苓になる」とか、「松の精気が変じたものだ」とか考えて珍重していた。その有難みは、漢方薬の材料として処方されるようになり、現在の医学でもその効果が立証された。最近是需要をまかなうために人工栽培が中国で行われている。

日本では、漢方薬に使うくらいで、それほど身近なきのこではないのだが、中国では、茯苓のような摩訶不思議なものは人気があるようで、文学作品にも登場することもある。ちなみに杜甫は、

寄語楊員外	山寒少茯苓	
婦来稍暄暖	当為□青冥	注) □は「属」+「斤」という字
翻動神仙窟	封題鳥獸形	
兼将老藤杖	扶汝醉初醒	

蘇軾は、

莫道長松浪得名	能教覆額兩眉青
便将徑寸同千尺	知有奇効似茯苓

などと詠んでいるが、本当に彼らが茯苓を松林で見たことがあるのだろうか？

しかし漢方薬の一般的な材料であることから、それほど珍奇なきのことというわけではないようだ。ただし本草綱目を著した李時珍は、芝 (靈芝) を「腐朽せる余気で生ずるもので、さながら人に生ずる瘤のようなもの」と喝破しているが、茯苓についてはその成因について「松の神靈の気が結節してなるもの」として、「茯苓には大きき斗 (十升?) ほどのものがあり、堅きこと石のごときものがあり、それがはなはだすぐれている。その軽虚なるものは佳くない。けだし年浅くしてまだ堅まっていないからだ」と記している。当時の科学知識では、この程度でもしかたないだろう。

表紙によせて 小沼良子 -----

ヒトヨタケ (*Coprinus atramentarius* (Bull.:Fr.) Fr.)

今年4月、千葉県立中央博物館の生態園で採集したヒトヨタケです。雨上がりの後、落葉だけでなく園路に敷かれた砂利をも持ち上げ発生します。一夜で溶けてしまうはかない命にもかかわらず、スーパーマン並のその凄いパワーに、一度口にしてみたいと思いながらいまだ実現しません。やっぱり酒のつまみになるきのこがいいなあ。

きのこを最初に食べた人はスゴイと思う。何が一番初めに食べられたのかは知らないけれど、どれにしてもこの奇妙なものを、かじってみようと思っただけでも三重丸。とくにカチコチのきのこを食べた人は花丸ものだ。まあ、カチコチとは言っても、新しいうちはしっとりとした感じで、時間が経つにつれてかたくなっていくのではあるが、これが生物だということにとっても驚きを感じる。

ところで、このカチコチのきのこの仲間にマンネンタケ（靈芝）がある。サルノコシカケを丸くして柄を生やしたようなやつだ。名前のとおり、靈的な神聖な感じがする……のは私だけではないはずだ。

つい先日「植物怪異伝説新考（日野巖著）」という本を読んだ。靈芝について中国の歴史書には芝草として登場することが書いてあり、芝というのは中国では端草を意味し、吉祥とされていたとある。さて、日本はというと、「日本書紀」の中に登場していて、雪の中に高さ六寸余の紫菌が生じているのを見つけ、煮て食べたら病もなく長生きしたということが記してあり、この紫菌の菌はカビではなくキノコであると書いてある。「日本紀略」には献上品として用いられたことが載っているという。昔から靈芝は端祥、すなわち縁起物であったようである。やはり靈芝はただものではないのだ。

中国の伝説に（靈芝を）服食すれば仙人となるというのがある。だからというわけではないが、興味に引かれるままに靈芝を煎じて飲んでみた。紅茶きのこではないが、どろどろしい黄土色でいかにも効きそうであった。匂いは干し椎茸のような日向くささがある。意を決してゴクッと……ニ・ガ・イ！！コーヒー以上に苦い。良薬口に苦しとは本当だろうか。しかし、これで長生きするぞとばかりに、きんさん、ぎんさん目指し毎日飲み続けております。と、言いたい所ですが、実際……飲み続けることは……。やっぱりだめだ。きのこのカサは傘に似ているからカサというのか、傘はきのこを模して作ったからカサというのか、にわとり卵論を繰り返して悩んでいる今日この頃です。

注) 靈芝（マンネンタケ・サルノコシカケ科）

靈芝は中国名である。温帯性のキノコで広葉樹の切株や立木の根本に生える。サンゴの様な形をし、色は褐色から黄色まで様々である。その美しさから、吉兆のしるしと昔からされてきた。江戸時代の図鑑「和漢三才圖會」や「本草圖譜」にも記されている。一年草の菌で茎は5~15cm、太さ1~2cm、傘は径5~15cm。近似種にマゴジャクシがある。

キノコに関する図書 紹介シリーズ(一) 図鑑類 腰野 文男

キノコに関する本は現在かなり多く出版されています。そのうち入手できると思われるものを①図鑑類、②キノコ料理に関する本、③日本各地のキノコ誌、④その他（キノコに関する参考書類）に分けてシリーズで紹介することにしました。今回は図書紹介シリーズの（一）として①の図鑑類について紹介いたします。

1. 「原色日本新菌類図鑑」(I,II) 今関六也、本郷次雄。(1987,1989). 保育社 各¥5000
旧著から約30年ぶりに改訂されたものでキノコの図は一つ一つ水彩画で書かれた力作です。内容は高度で記載されている種類も多く、現在最も詳しく本格的なキノコの図鑑です。
2. 「山溪カラー名鑑日本のきのこ」今関六也、大谷吉雄、本郷次雄。山と溪谷社 ¥4630
どのページを開いても楽しめるシャープな生態写真で構成されており、どんな場所にどんな風に発生するのが一目でわかりやすい。内容は種類も多く調理にいたるまで簡潔で親切な説明があり巻末の味区分一覧も便利。キノコ愛好家はぜひ備えたい図鑑です。
3. 「きのこ図鑑」本郷次雄、上田俊穂、伊沢正名。保育社 ¥1400
名前を調べるのに便利な検索表、学名の意味、孢子図解、シャープな生態写真など特徴ある優れた入門検索図鑑。
4. 「JTBブックス図鑑きのこ」横山和正。日本交通公社 ¥1200
有毒キノコのまとめ、主な生育樹林帯別に区分された正確な解説。観察上便利な図鑑。
5. 「標準原色図鑑全集14 菌類(きのこ,かび)」今関六也、本郷次雄、椿。保育社 ¥2300
かびからきのこ全般まで扱っているのが特徴。小形ではあるが学名解説、孢子図解もあり携帯にも便利な図鑑。
6. 「キノコ狩りガイドブック」伊沢正名、川嶋健一。永岡書店 ¥1250
シャープな生態写真、発生場所、見分け方、料理法、料理の写真など要領よくまとめた図鑑。巻末のキノコ写真の写し方も便利。
7. 「野外ハンドブック3 きのこ」今関六也。山と溪谷社 ¥1600
キノコの特徴によってグループ分けして解説。小形で携帯にも便利な図鑑。
8. 「見る、採る、食べるきのこカラー図鑑」小川眞。講談社 ¥2200
キノコ狩りのガイドマップ。菌根の図による解説など特徴ある優れた図鑑。巻末にはキノコ同好会一覧もあるので便利。
9. 「自然観察と生態シリーズ6 きのこ・こけ・しだ」井上浩、横山和正。小学館 ¥1200
扱っているキノコの数はい少ないが、初めての人にはわかりやすい図鑑。
10. 「きのこ その見分け方」大谷吉雄。北隆館 ¥950
主なキノコについて写真のほか、線画入りで各部分の特徴を詳細に解説。類似毒茸との見分けの要点も便利。
11. 「野草実用図鑑2 きのこの見分け方」松田一郎、成田伝蔵。学習研究社 ¥1400
キノコの探索表、用語解説、毒キノコのまとめのほか、分類別に配列した生態写真と解説。コンパクトで携帯に便利。
12. 「最新きのこのカタログ」上田俊穂、小宮山勝司、萩原博光。成美堂出版 ¥1600
A4判変型/コンパクト版で大判。Part I 食べられるきのこ、Part II 毒きのこからPart Vまでシャープな生態写真と解説。見て読んできのこ狩を楽しくする図鑑。
13. 「山菜・きのこ・木の実フィールド日記」水野伸彦。山と溪谷社 ¥2000
月毎に見られるキノコの生態写真と解説。観察データが書き込めるオリジナルな図鑑。

14. 「フィールドガイドきのこ」菅原光二 小学館 ¥1800

分類別に配列されたシャープな生態写真と解説。巻末の私のフィールド記録チェックリストも利用でき、ポケット判で携帯に便利な図鑑。

*その他手元にないので解説は省略しますが、次のような図鑑があります。

「カラー版きのこ（見分け方、食べ方）」清水大典、伊沢正名、家の光協会 ¥2680

「原色きのこ全科 見分け方と食べ方」清水大典、家の光協会 ¥850

「コンパクト版6 原色きのこ図鑑」北隆館、¥4500

「きのこ基本50」水野仲彦、森林書房 ¥1200

「アウトドアシリーズ 図解ハンドブック きのこ狩りの本」飯田、日本交通公社 ¥790

「きのこ採り方&料理とその効果」高木、立風書房 ¥1800

「きのこ採りの楽しみ」横山竜夫、内田正宏、伊沢正名、永岡書店 ¥800

*子供向けのキノコ図鑑（解説省略）

「ジュニア図鑑きのこ」上田俊穂、保育社 ¥880

「カラー版自然と科学 日本のキノコ」吉見昭一、岩崎書店 ¥1200

「森のきのこ」小林路子、岩崎書店 ¥1300

「しぜんのせかい7きのこ」伊沢正名、岩谷、世界文化社 ¥700

以上、図書紹介シリーズの(一)として、現在入手できると思われるものを紹介しましたが、あまりたくさん紹介されると、どの図鑑を購入したらよいか迷う方もいると思います。談話会の会員でも、キノコ狩りは初歩の方からベテランの方まで、いろいろな段階の方がいますので、先輩の方からこれがいんじゃないかと薦められた図鑑（例えば3は初級用、2はそれ以上の段階の方におすすめできるよい図鑑）を購入し、採集したキノコの実物と比較して覚えるまで徹底して利用し、それから上の段階の図鑑を購入されることをおすすめします。

行事案内

* 談話会関係 *

1) 採集会

第1回採集会：8月8日（土曜）市原市市民の森（次ページ参照）

第2回採集会：10月2日（金曜）清和県民の森

講師：本郷次雄博士 滋賀大学名誉教授（予定）

第3回採集会：11月7日（土曜）清和県民の森

2) スライド大会：懇親会

第1回スライド大会：11月28日（土）

*詳しくは後日、お知らせ致します。

市原市市民の森採集会

場 所：市原市市民の森（別紙、交通案内図をご覧ください）
日 時：1992年8月8日（土曜）午前10：15（集合）—午後3：30（解散）
集合場所：小湊鉄道、月崎駅前（午前10：15 駅前に集合）
内 容：キノコ採集（午前）と同定（午後）
連 絡：談話会事務局 *雨天中止、小雨決行！
（当日、8：00A.M.までは吹春自宅、Tel.043--261-0004）
持 物：昼食、雨具、採集道具、採集可能な服装
交 通：JR五井駅から小湊鉄道にて（約45分）月崎駅下車、徒歩約30分
*参 考：五井駅9：15発—10：00月崎駅着の列車があります
*参加希望者は、7月末日までに談話会事務局にお申し込み下さい。なお、これは参加人数を前もって把握するためのものですので、“ふつうのハガキ”でけっこうです。当日は、傷害保健には加入していませんので、各自ケガ、事故等がないようにご注意ください。

博物館関係 「菌類分類学講座」

1. 開催日時・講座名

- 第1回 平成4年 10月3、4日（土、日）ハラタケ日の分類
講師：本郷 次雄（滋賀大学名誉教授）
第2回 平成4年 11月15日（日）各種工業に利用される菌類
講師：堀江 義一（千葉県立中央博物館）
第3回 平成5年 1月24日（日）地衣類
講師：原田 浩（千葉県立中央博物館）
第4回 平成5年 2月28日（日）糞生菌の分類
講師：古谷 航平（三共株式会社筑波研究所）
第5回 平成5年 3月7日（日）植物の病気をこす菌類
講師：勝屋 敬三（筑波大学農林学系）
第6回 平成5年 3月14日（日）盤菌類の分類
講師：長尾 英幸（千葉大学園芸学部）

いずれも午前10時より午後3時まで。定員16名。参加費無料。

2. 場所：千葉県立中央博物館研修室

3. 申し込み方法：

参加ご希望の方は各講座開催日の1ヶ月前から2週間前までに、下記宛先まで往復葉書で、年齢・住所・電話番号を明記の上お申し込み下さい。申し込み多数の場合は抽選となります。なお、各講座は独立した講座となっており、それぞれ御申込頂けますが、連続して参加ご希望の方はそのむね明記して一枚の往復ハガキでお申し込み下さい。

4. 申し込み先：

千葉県立中央博物館植物科、第〇回菌類講座「……について」

〒260 千葉市中央区青葉町955-2番地

電話：043-265-3921（植物科）Fax：043-266-2481

これからの会の運営について

千葉県菌類談話会も発足後2年目を迎えました。会長一人、事務局一人で始めた会で、なかなか採集会の企画・会報の発行が思うにまかせず、会員の方からの強い要望で、今年より幹事会を組織することになりました。会長と旧事務局の独断で以下の幹事さんをお願いし、第一回幹事会(6月27日)を開き、92年度の行事予定及び、運営について話し会いました。採集会の主催・案内、会報の発行等、この新体制でおこなっていきます。

1) 第1期幹事

会 長：腰野 文男
採集・企画幹事：相京 康、石田 いし子
編 集 幹 事：小西 弘倫、野村 麻結実
庶務・会計幹事：小沼 良子、北川 公子、吹春 俊光
(なお会の顧問を本郷 次雄先生にお願いしています)

2) 92年度談話会行事予定 別記参照

3) これからの活動目標

採集会・勉強会の実施、千葉県産菌類リストの作成、図鑑作成、菌類講座ビデオの作成など。

4) 会費納入 年会費¥1000(年度会費：4月～翌年3月迄)

納入方法は原則として、郵便振込とする。(東京0-550400)

平成3年度までの会費の扱いにつきましては、事務局が完全に移行した後に報告いたします。

5) 入会方法 上記の郵便振込口座へ振り込むと自動的に入会となります。氏名、生年月日、自宅住所・職場の名称、住所、電話番号を必ず記入のこと。

編集後記

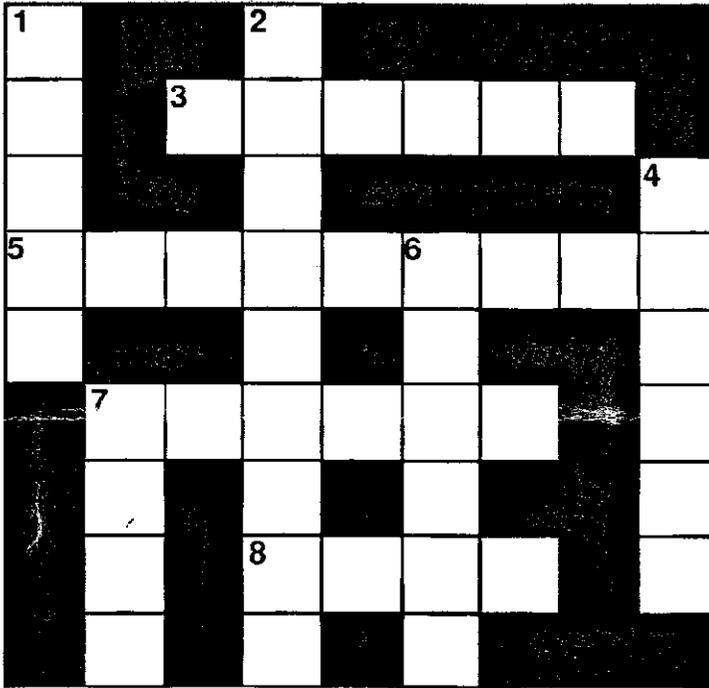
・発足2年後にしてようやく役員も決り、通信No.3もでき、8月の採集日も決り、役員みんなはりきっています!これからは、どんどん採集会や勉強会等を開き、通信も内容の濃いものにして行きたいと思っています。つきましては、会員皆様の暖かいご指導の程を、宜しくお願いいたします。なお、通信をより楽しくする為、会員皆様からの会への希望などの投稿を心よりお待ちしております。もちろん、キノコのカット也大歓迎!!私のキノコ自慢、キノコスケッチ記録、キノコクロスワード、キノコの美味しい食べ方などなど。メ切は特に定めておりません。随時お寄せ下さい。原稿は返却致しませんので、ご注意ください。只今、原稿類が特に少ないので、大大歓迎です!!最後に、今年は11月28日(土)に、懇親会も兼ねたスライド大会を計画しております。会員皆様の美しい写真をお待ちしておりますので、どしどしお寄せ下さい。今から、沢山撮っておいてくださいね!＊撮影日は、構いませんが撮影地は、千葉県内のを期待しております。＊上映中は、ご本人に、キノコのスライドについて1枚ずつ簡単なコメントをして頂きたいと思っています。そのキノコに出会った時の感想、撮影にあたっての苦労話等、何でも結構です。＊スライドは、当日お持ち下さい(野)

・役員会が出来、初めての会報でしたが、ページ数も多く出来上がるのに苦労しました。皆さんの御意見、御感想などをお待ちしております。(JNITEN)

・クロスワードでも作ってみたらの甘い言葉に、簡単に引き受けたものの、むずかしい。黒マスがいやに多くなってしまいました。我こそはと思う方クロスワード作りに挑戦してみてください(沼)

・編集が新幹事となり、今回は大変助かりました。キノコクロスワードは日本初?ではないでしょうか(春)

キノコクロスワード



たてのカギ

1. ヒトヨタケ科だがヒダは液化しない。傘、柄とも褐色のささくれにおおわれている。
2. ホコリタケのことをこう呼びます。
4. 中国では高級料理に使われる。全体は白色で半透明のゼラチン質のキノコ。
6. ドイツではスタインピルツと呼ばれ、西欧では最高級のキノコ。
7. 女王のいる昆虫の死体より発生するキノコ。

よこのカギ

3. 幼菌は卵形。ものすごい悪臭を放つグレバを傘につける。ベールはない。
5. たての2によく似るがこちらは朽ち木上に発生することもある。
7. 赤い大型のウチで傘が独特のひび割れ模様になる。食用として珍重される。
8. トタテ〇〇、フクロ〇〇に寄生。

問題：答えのキノコに共通することは？ (次号に解答)

千葉菌類談話会通信 No. 3 1992年7月20印刷、発行
 会長：腰野文男
 事務局：千葉県立中央博物館 植物科吹春 気付「千葉菌類談話会」
 千葉市青葉町955-2
 電話：043-265-3111 Fax：043-266-2481
 郵便振替口座：東京0-550400「千葉菌類談話会」